

令和元年度決算報告書

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本防災通信協会

貸借対照表
令和2年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	157,873	139,060	18,813
諸預金	117,160,948	134,541,517	△ 17,380,569
未収金	260,174,307	249,925,119	10,249,188
前払費用	1,700,834	4,344,150	△ 2,643,316
貯蔵品	2,853,357	3,118,931	△ 265,574
流動資産合計	382,047,319	392,068,777	△ 10,021,458
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
運用財産預金	217,688,331	63,276,986	154,411,345
運用財産有価証券	958,091,560	1,119,568,280	△ 161,476,720
特定資産合計	1,175,779,891	1,182,845,266	△ 7,065,375
(2) その他固定資産			
建物附属設備	492,114	570,075	△ 77,961
什器備品	3,695,493	3,507,166	188,327
ソフトウェア	0	18,000	△ 18,000
電話加入権	51	51	0
差入保証金	11,729,600	11,729,600	0
その他固定資産合計	15,917,258	15,824,892	92,366
固定資産合計	1,191,697,149	1,198,670,158	△ 6,973,009
資産合計	1,573,744,468	1,590,738,935	△ 16,994,467
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	32,898,864	33,555,440	△ 656,576
未払法人税等	423,000	421,800	1,200
未払消費税	22,857,100	12,735,600	10,121,500
前受金	0	28,512	△ 28,512
預り金	4,263,232	4,370,021	△ 106,789
賞与引当金	46,390,213	43,321,826	3,068,387
流動負債合計	106,832,409	94,433,199	12,399,210
2. 固定負債			
退職給付引当金	76,568,549	73,298,877	3,269,672
固定負債合計	76,568,549	73,298,877	3,269,672
負債合計	183,400,958	167,732,076	15,668,882
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	1,390,343,510	1,423,006,859	△ 32,663,349
(うち特定資産への充当額)	(1,175,779,891)	(1,182,845,266)	△ (7,065,375)
正味財産合計	1,390,343,510	1,423,006,859	△ 32,663,349
負債及び正味財産合計	1,573,744,468	1,590,738,935	△ 16,994,467

貸借対照表内訳表
令和2年3月31日現在

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金		157,873		157,873
諸預金	26,193,790	90,967,158		117,160,948
未収金	260,174,307			260,174,307
会計間振替勘定		32,435,150	△ 32,435,150	0
前払費用		1,700,834		1,700,834
貯蔵品	2,853,357			2,853,357
流動資産合計	289,221,454	125,261,015	△ 32,435,150	382,047,319
2. 固定資産				
(1) 特定資産				
運用財産預金		217,688,331		217,688,331
運用財産有価証券		958,091,560		958,091,560
特定資産合計		1,175,779,891		1,175,779,891
(2) その他固定資産				
建物附属設備	481,779	10,335		492,114
什器備品	3,617,887	77,606		3,695,493
電話加入権	50	1		51
差入保証金	11,483,279	246,321		11,729,600
その他固定資産合計	15,582,995	334,263		15,917,258
固定資産合計	15,582,995	1,176,114,154		1,191,697,149
資産合計	304,804,449	1,301,375,169	△ 32,435,150	1,573,744,468
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	2,859,885	30,038,979		32,898,864
会計間振替勘定	32,435,150		△ 32,435,150	0
未払法人税等	423,000			423,000
未払消費税	22,857,100			22,857,100
預り金		4,263,232		4,263,232
賞与引当金		46,390,213		46,390,213
流動負債合計	58,575,135	80,692,424	△ 32,435,150	106,832,409
2. 固定負債				
退職給付引当金	75,802,864	765,685		76,568,549
固定負債合計	75,802,864	765,685		76,568,549
負債合計	134,377,999	81,458,109	△ 32,435,150	183,400,958
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	170,426,450	1,219,917,060		1,390,343,510
(うち特定資産への充当額)		(1,175,779,891)		(1,175,779,891)
正味財産合計	170,426,450	1,219,917,060		1,390,343,510
負債及び正味財産合計	304,804,449	1,301,375,169	△ 32,435,150	1,573,744,468

正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①特定資産運用益	11,985,687	11,985,682	5
運用財産受取利息	11,985,687	11,985,682	5
② 事業収益	957,420,194	963,723,600	△ 6,303,406
運用指導収益	816,567,884	820,864,200	△ 4,296,316
保守指導収益	126,402,310	127,226,400	△ 824,090
通報装置普及収益	14,450,000	15,633,000	△ 1,183,000
③雑収益	3,288,796	3,295,644	△ 6,848
受取利息	1,572	1,813	△ 241
雑収益	3,287,224	3,293,831	△ 6,607
経常収益計	972,694,677	979,004,926	△ 6,310,249
(2) 経常費用			
① 事業費	981,762,495	990,746,274	△ 8,983,779
役員等報酬	56,491,470	56,436,923	54,547
給料手当	521,653,189	515,901,861	5,751,328
退職給付費用	32,903,170	32,387,997	515,173
福利厚生費	96,982,326	94,795,747	2,186,579
賞与引当金繰入額	45,926,310	42,888,607	3,037,703
運用指導費	28,764,672	29,757,974	△ 993,302
機関紙発行費	24,290,716	24,330,724	△ 40,008
通報装置普及業務費	7,708,906	8,928,625	△ 1,219,719
広報費	16,912,564	44,385,847	△ 27,473,283
システム関係費	10,574,233	3,299,816	7,274,417
会議費	3,253,229	3,360,166	△ 106,937
旅費交通費	84,345,284	84,816,395	△ 471,111
通信運搬費	1,533,499	1,409,933	123,566
減価償却費	2,319,384	1,632,945	686,439
什器備品費	0	39,818	△ 39,818
消耗品費	528,463	399,061	129,402
印刷図書費	6,137,040	3,985,058	2,151,982
支部事務費	9,772,603	10,331,097	△ 558,494
賃借料	18,502,430	18,359,850	142,580
事務所費	9,928,919	9,071,794	857,125
渉外費	40,500	44,003	△ 3,503
諸謝金	1,777,592	1,760,168	17,424
租税公課	297,270	262,799	34,471
雑費	1,118,726	2,159,066	△ 1,040,340

科目	当年度	前年度	増減
② 管理費	16,107,149	15,841,029	266,120
役員等報酬	7,201,576	7,176,801	24,775
給料手当	5,269,225	5,211,130	58,095
退職給付費用	332,356	327,152	5,204
福利厚生費	979,620	957,533	22,087
賞与引当金繰入額	463,903	433,219	30,684
システム関係費	106,811	33,332	73,479
会議費	32,861	33,942	△ 1,081
旅費交通費	680,204	684,004	△ 3,800
通信運搬費	15,490	14,242	1,248
減価償却費	23,429	16,495	6,934
什器備品費	0	403	△ 403
消耗品費	5,339	4,031	1,308
印刷図書費	61,991	40,254	21,737
賃借料	532,992	528,885	4,107
事務所費	370,790	338,781	32,009
渉外費	410	445	△ 35
諸謝金	17,956	17,780	176
租税公課	895	791	104
雑費	11,301	21,809	△ 10,508
経常費用計	997,869,644	1,006,587,303	△ 8,717,659
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 25,174,967	△ 27,582,377	2,407,410
運用財産評価損益	△ 7,065,375	11,749,725	△ 18,815,100
評価損益等計	△ 7,065,375	11,749,725	△ 18,815,100
当期経常増減額	△ 32,240,342	△ 15,832,652	△ 16,407,690
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	7	7,665	△ 7,658
経常外費用計	7	7,665	△ 7,658
当期経常外増減額	△ 7	△ 7,665	7,658
税引前一般正味財産増減額	△ 32,240,349	△ 15,840,317	△ 16,400,032
法人税・住民税及び事業税	423,000	421,800	1,200
当期一般正味財産増減額	△ 32,663,349	△ 16,262,117	△ 16,401,232
一般正味財産期首残高	1,423,006,859	1,439,268,976	△ 16,262,117
一般正味財産期末残高	1,390,343,510	1,423,006,859	△ 32,663,349
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,390,343,510	1,423,006,859	△ 32,663,349

正味財産増減計算書内訳表

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益		11,985,687		11,985,687
運用財産受取利息		11,985,687		11,985,687
② 事業収益	957,420,194			957,420,194
運用指導収益	816,567,884			816,567,884
保守指導収益	126,402,310			126,402,310
通報装置普及収益	14,450,000			14,450,000
④ 雑収益	3,288,796			3,288,796
受取利息	1,572			1,572
雑収益	3,287,224			3,287,224
経常収益計	960,708,990	11,985,687		972,694,677
(2) 経常費用				
① 事業費	981,762,495			981,762,495
役員等報酬	56,491,470			56,491,470
給料手当	521,653,189			521,653,189
退職給付費用	32,903,170			32,903,170
福利厚生費	96,982,326			96,982,326
賞与引当金繰入額	45,926,310			45,926,310
運用指導費	28,764,672			28,764,672
機関紙発行費	24,290,716			24,290,716
通報装置普及業務費	7,708,906			7,708,906
広報費	16,912,564			16,912,564
システム関係費	10,574,233			10,574,233
会議費	3,253,229			3,253,229
旅費交通費	84,345,284			84,345,284
通信運搬費	1,533,499			1,533,499
減価償却費	2,319,384			2,319,384
消耗品費	528,463			528,463
印刷図書費	6,137,040			6,137,040
支部事務費	9,772,603			9,772,603
賃借料	18,502,430			18,502,430
事務所費	9,928,919			9,928,919
渉外費	40,500			40,500
諸謝金	1,777,592			1,777,592
租税公課	297,270			297,270
雑費	1,118,726			1,118,726

	公益目的事業会計	法人会計	内部取引	合計
② 管理費		16,107,149		16,107,149
役員等報酬		7,201,576		7,201,576
給料手当		5,269,225		5,269,225
退職給付費用		332,356		332,356
福利厚生費		979,620		979,620
賞与引当金繰入額		463,903		463,903
システム関係費		106,811		106,811
会議費		32,861		32,861
旅費交通費		680,204		680,204
通信運搬費		15,490		15,490
減価償却費		23,429		23,429
什器備品費		0		0
消耗品費		5,339		5,339
印刷図書費		61,991		61,991
賃借料		532,992		532,992
事務所費		370,790		370,790
渉外費		410		410
諸謝金		17,956		17,956
租税公課		895		895
雑費		11,301		11,301
経常費用計	981,762,495	16,107,149		997,869,644
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 21,053,505	△ 4,121,462		△ 25,174,967
運用財産評価損益		△ 7,065,375		△ 7,065,375
評価損益等計		△ 7,065,375		△ 7,065,375
当期経常増減額	△ 21,053,505	△ 11,186,837	0	△ 32,240,342
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0		0
(2) 経常外費用				
什器備品除却損	7	0		7
経常外費用計	7	0		7
当期経常外増減額	△ 7	0		△ 7
税引前当期一般正味財産増減額	△ 21,053,512	△ 11,186,837		△ 32,240,349
法人税、住民税及び事業税	423,000			423,000
当期一般正味財産増減額	△ 21,476,512	△ 11,186,837		△ 32,663,349
一般正味財産期首残高	191,902,962	1,231,103,897		1,423,006,859
一般正味財産期末残高	170,426,450	1,219,917,060		1,390,343,510
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0		0
Ⅲ 正味財産期末残高	170,426,450	1,219,917,060		1,390,343,510

財 産 目 録
令和2年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	手元保管	運転資金として	157,873
	諸預金	普通預金	運転資金として	117,160,948
		みずほ銀行麹町支店ほか		90,967,158
		支部現金等みずほ銀行ほか		26,193,790
	未収金	当年度収益の未収金分		260,174,307
		テルウェル東日本(株)ほか	運用指導に係る未収金	223,656,047
		"	保守指導に係る未収金	33,917,592
		"	非常通報装置普及に係る未収金	2,585,608
		テルウェル西日本(株)	防災通信有償分等に係る未収金	15,060
	前払費用	当年度に支出した次年度費用		1,700,834
		大星ビル管理(株)ほか	管理的業務に係る前払費用	1,700,834
	貯蔵品	当年度期末棚卸高		2,853,357
		防犯DVD	公益目的事業に係る貯蔵品	2,457,482
		パンフレットほか	公益目的事業に係る貯蔵品	395,875
流動資産合計				382,047,319
(固定資産)				
特 定 資 産	普通預金	みずほ銀行麹町支店	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	1,175,779,891
	定期預金	みずほ銀行麹町支店	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	3,688,331
	有価証券	野村證券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	214,000,000
		(利付国債313回ほか)	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	592,736,560
		SMBC日興証券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	315,310,000
		(利付国債321回ほか)		
		大和証券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	50,045,000
		(利付国債323回)		
	建物附属設備	間仕切り工事	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	15,917,258
				492,114
	什器備品	会議室テーブル・応接セットほか	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	3,695,493
	電話加入権	本部5回線、支部46回線	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	51
	差入保証金	千代田区麹町2丁目14番2ほか	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	11,729,600
		麹町NKビルに対する保証金ほか		
固定資産合計				1,191,697,149
資産合計				1,573,744,468

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	未払金	当年度経費の未払分 (株)雄進プラスほか 佐川急便株式会社ほか	公益目的事業に係る未払金 管理的業務に係る未払金	32,898,864 2,859,885 30,038,979
	未払法人税等		公益目的事業に係る均等割	423,000
	未払消費税	麴町税務署	公益目的事業に係る確定消費税	22,857,100
	預り金	役職員からの預り金	公益目的事業及び管理的業務に従事する役職員の源泉所得税・住民税等	4,263,232
	賞与引当金		公益目的事業及び管理的業務に従事する職員の賞与に係る引当金	46,390,213
流動負債合計				106,832,409
(固定負債)	退職給付引当金	役職員に対するもの	公益目的事業及び管理業務に従事する役職員の退職金	76,568,549
固定負債合計				76,568,549
負債合計				183,400,958
正味財産				1,390,343,510

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2に記載しております。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期 首 残 高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	43,321,826	46,390,213	43,321,826		46,390,213
退職給付引当金	73,298,877	45,666,092	42,396,420		76,568,549

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

- (1)有価証券の評価基準及び評価方法
満期保有目的の債券
償却原価法(定額法)を採用している。

満期保有目的の債券並びに子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券

- ①時価のあるもの
期末日の市場価格等に基づく時価法を採用している。
②時価のないもの
移動平均法による原価法を採用している。

- (2)棚卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入による原価法を採用している。

- (3)固定資産の減価償却
①有形固定資産
定率法を採用している。
②無形固定資産
定額法を採用している。
③リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

- (4)賞与引当金の計上基準
職員に対する賞与の支給に備え、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上している。

- (5)退職給付引当金の計上基準
役員、職員の退職金の支給に備えるために、自己都合退職による期末要支給額の全額を計上している。

- (6)リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外の重要性の乏しいファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借処理に係る方法に準じた会計処理によっている。

- (7)消費税等の会計処理
税抜方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
運 用 財 産 預 金	63,276,986	154,411,345	0	217,688,331
運 用 財 産 有 価 証 券	1,119,568,280	36,409,716	197,886,436	958,091,560
合 計	1,182,845,266	190,821,061	197,886,436	1,175,779,891

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳はつぎのとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
運 用 財 産 預 金	217,688,331		(217,688,331)	
運 用 財 産 有 価 証 券	958,091,560		(958,091,560)	
合 計	1,175,779,891	0	(1,175,779,891)	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物 附 属 設 備	2,515,000	2,022,886	492,114
什 器 備 品	16,786,598	13,091,105	3,695,493
ソ フ ト ウ ェ ア	3,775,040	3,775,040	0
合 計	23,076,638	18,889,031	4,187,607

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
第 323 回 国債 大和証券	50,045,000	51,155,000	1,110,000
第 317 回 国債 野村証券	36,007,580	36,655,380	647,820
第 144 回 国債 野村証券	49,889,500	58,326,100	8,436,600
第 313 回 国債 野村証券	99,995,500	101,384,700	1,389,200
第 145 回 国債 野村証券	30,039,500	35,818,470	5,778,970
第 323 回 国債 野村証券	50,045,000	51,151,850	1,106,850
第313回 国債 SMBC日興証券	100,000,000	101,390,000	1,390,000
第321回 国債 SMBC日興証券	100,000,000	102,240,000	2,240,000
合 計	516,022,060	538,121,500	22,099,440

6. 関連当事者との取引の内容

該当する取引はない。

独立監査人の監査報告書

令和2年5月25日

公益財団法人 日本防災通信協会
理 事 会 御 中

監査法人 不二会計事務所

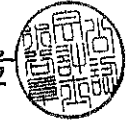
東京都台東区

代 表 社 員

業務執行社員 公認会計士

水谷

章



<財務諸表等監査>

監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益財団法人日本防災通信協会の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ－5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益財団法人日本防災通信協会の令和 2 年 3 月 31 日現在の令和元年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告

公益財団法人 日本防災通信協会
理事長 横 内 泉 殿

私ども監事は、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度における会計及び業務の監査を行い、その結果を次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、公認会計士から監査の手続き及び監査結果等について説明を求めるとともに、帳簿並びに関係書類の閲覧、調査を行い、当該事業年度における計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他会議に出席し、理事からの業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査の結果

- (1) 会計監査人である監査法人不二会計事務所の監査の方法及び監査の結果は妥当である。
- (2) 事業報告の内容は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。
- (3) 理事の職務執行について、法令もしくは定款に照らし違反する事実は認められない。

令和2年5月25日

公益財団法人 日本防災通信協会

監事 出 原 健 三



監事 梶 山 正 浩

